

## 『都市域内の流れ場を対象とした気象モデルとLESモデルの接続に関する研究』に関する研究集会

近年、広域の風況予測を行う気象モデルは、コンピュータ性能の向上および、そのソースコードの公開により研究の分野および実務の分野で広く使われるようになってきています。また、市街地などの建物周りの風速場の予測などには、ビル風の問題や耐風設計の観点からツールとしての数値流体解析(CFD)が広く使われるようになってきています。市街地などの建物周りの風速場を、ある特定の日時に対して予測を行う場合には、気象モデルの得られた広域の予測結果を、CFDの入力条件として用い予測することが有効となりますが、現在、様々な研究がなされている状況です。しかし、気象モデルの結果が、実際の都市域の流れをどの程度再現しているかについては、不明な点が多く、特に乱流性状については、ほとんど比較検討がなされていないのが現状です。また、気象モデルとLES接続に不可欠な変動流入風の発生も、これからの研究課題だと言えます。

本研究会の目的は、任意の気象場における拡散の状況を予測するためにメソ気象モデルの計算結果を入力情報として、都市域内の流れ場をLES解析によって予測することです。研究会では、現在、乱流のモデリングにMYNNモデルを用いたWRFの解析結果と上空風の観測結果の比較作業、および変動流入風作成の作業を進めています。研究集会ではその状況を報告します。また、現在、計画している実市街地を対象とした風および拡散の実観測についての展望を述べつつ、今後取り組むべき課題等を議論する予定です。奮ってご参加いただきたく、ご案内申し上げます次第です。

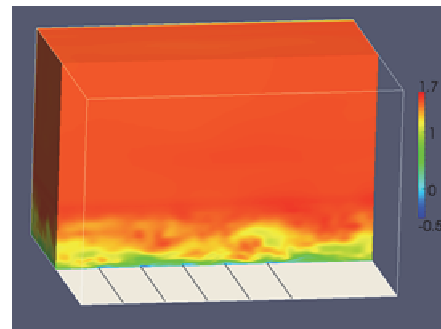
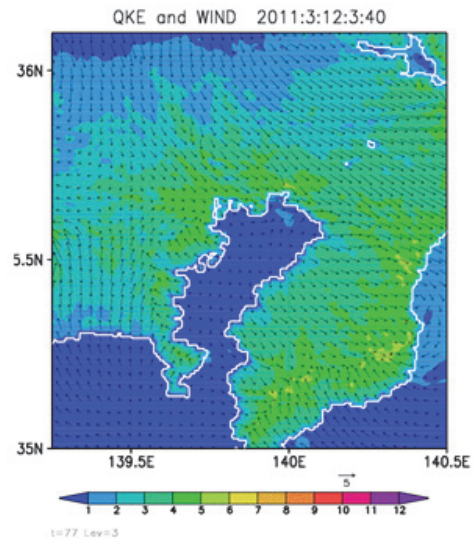
**と き：** 2014年2月28日 15:00～17:10

**と ころ：** 東京工芸大学中野キャンパス・芸術情報館1階ホール（東京都中野区本町2-9-5）  
東京メトロ丸ノ内線／都営地下鉄大江戸線・中野坂上駅，1番出口から徒歩7分

**問合先：** 東京工芸大学・風工学研究拠点・建築環境工学研究室 046-242-9615

岡部祐子 [okabe@arch.t-kougei.ac.jp](mailto:okabe@arch.t-kougei.ac.jp)

<同日午後の13:00～14:50には、関連して「不安定乱流境界層内の建物周りのガス拡散・熱拡散に関する風洞実験と数値解析」を開催致します。こちらへのご参加も、是非お願い致します。>



東京工芸大学風工学共同研究拠点 研究集会

## 都市域内の流れ場を対象とした

# 気象モデルと LES モデルの接続に関する研究

## プログラム(案)

15:00 - 15:05	開会挨拶 中山 悟 (東芝)
15:05 - 15:15	趣旨説明 宮下康一(風工学研究所)
15:15 - 15:35	都市気象における WRF の利用について 下瀬健一(防災科学技術研究所)
15:35 - 15:55	WRF の解析結果と実風の観測結果の比較 (平均風速および平均温度の鉛直分布) 三浦 翔(東京工芸大学)
15:55 - 16:05	休憩
16:05 - 16:25	WRF の解析結果と実風の観測結果の比較 (平均風速および乱流エネルギーについて) 赤星 明紀(風工学研究所)
16:25 - 16:45	風速勾配を有する変動流入風の発生について 野田 博(近畿大学)
16:45 - 17:05	今後の展望 - 実市街地を対象とした観測および風況予測について 佐々木亮治(風工学研究所)
17:05 - 17:10	閉会挨拶 義江 龍一郎 (東京工芸大学)

司会: 岸田 岳士 (風工学研究所)

